

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	倫理		担当教員	伊藤隆		
学年学科	2年 M・E・D 学科		通年	必修	2単位	
学習・教育目標	(A-1) 100%					
授業の目標と期待される効果： われわれは人生の日々のなかで、さまざまな問いを自らに投げかけ、悩みながら生きている。その際、有益な示唆を与えてくれるのは、先人たちが残してくれた数多の言葉である。倫理の授業では、古今東西の思想家たちを取り上げ、彼らがたどった軌跡、ならびに、彼らの思想の内容を学習する。1年間の授業を通して、人間や社会のさまざまな問題を、順序立てて考える力を身につけていく。具体的な目標は以下の通り。 人類の知的遺産について知識を広げる。 異文化や多様な価値観への理解・関心を深める。 社会的諸問題に対する倫理的判断力を養成する。			成績評価の方法： 以下の総得点500点に占める得点率で最終評価を行なう。 前期：中間試験100点+期末試験100点+課題提出50点 後期：中間試験100点+期末試験100点+課題提出50点 達成度評価の基準： 以下の各要素についての達成度を成績評価の基準とする。 人類の知的遺産について正しい知識を習得したか。 異文化や多様な価値観への理解・関心が深まったか。 社会的諸問題に対し論理的に考え、倫理的な判断を下す力が身についたか。			
授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書・図説（資料集）を使用した講義形式で行なう。授業では、多くの思想家を取り上げ、彼らの思想のエッセンスを説明していく。自分が興味・関心を抱いた思想家については、ぜひとも実際にそのテキストにあたってほしい。彼らのテキストは、多くの場合、文庫本などで手軽に手に入れることができる。						
教科書および参考書： 『倫理』（東京書籍）を教科書とし、『新編アプローチ倫理資料』（とうほう）を副教材として使用する。その他、必要に応じてプリント等を配布する。						
授業の概要と予定：前期						
第 1 回：イントロダクション						
第 2 回：ギリシア哲学						
第 3 回：ギリシア哲学						
第 4 回：ギリシア哲学						
第 5 回：ユダヤ教とキリスト教						
第 6 回：ユダヤ教とキリスト教						
第 7 回：イスラーム教						
第 8 回：仏教						
第 9 回：中間試験						
第 10 回：中国の源流思想						
第 11 回：中国の源流思想						
第 12 回：日本思想の源流						
第 13 回：日本仏教						
第 14 回：日本仏教						
第 15 回：儒学と国学の思想						
期末試験						
第 16 回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）						

授業の概要と予定：後期
第17回：近世の民衆思想
第18回：ルネサンス
第19回：宗教改革
第20回：合理論と経験論
第21回：モラリスト
第22回：社会契約説
第23回：フランス啓蒙思想
第24回：ドイツ観念論
第25回：中間試験
第26回：ドイツ観念論
第27回：イギリス功利主義
第28回：社会主義
第29回：西洋思想と日本
第30回：日本人の独創的思想
第31回：「私」とは何か？
期末試験
第32回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）